

MPC-RP40~160(S)GA(H)2 電気配線図

【記号説明】

記号	名称	記号	名称	記号	名称
P.B	室内電源基板	C	コンデンサ (送風機用電動機)	W.B	ワイヤレス受光基板
I.B	室内制御基板	MF	送風機用電動機	別売部品	別売部品
FUSE	ヒューズ (6.3A)	MV	送風機用電動機	LED1	発光ダイオード (運転表示: ミドリ)
ZNR	バリスタ	TB1	端子盤 (室外: 電源及び内外接続線)	LED2	発光ダイオード (暖房運転中表示: オレンジ)
BCR	ファン制御用素子	TB2	端子盤 (室内: 電源 (ヒータ/ヒータレス別売))	SW1	応急運転 (暖房)
CN2L	コネクタ (別売: ロスノイ、遠方表示キット)	TB4	端子盤 (室内: 内外接続線)	SW2	応急運転 (冷房)
CN32	コネクタ (別売: 遠方制御用アダプター)	TB5, TB6	端子盤 (リモコン伝送線)	R.B	ワイヤードリモコン
CN41	コネクタ (EMA標準H端子-A)	TH1	サーミスタ (室内吸入温度検知) 0°C/15KΩ, 25°C/5.4KΩ		
CN51	コネクタ (集中管理)	TH2	サーミスタ (室内配管 (液管) 温度検知) 0°C/15KΩ, 25°C/5.4KΩ		
LED1	発光ダイオード (マイコン電源)	TH5	サーミスタ (室内配管 (二相管) 温度検知) 0°C/15KΩ, 25°C/5.4KΩ (P40~160のみ)	補助ヒータ	補助ヒータ
LED2	発光ダイオード (リモコン給電)			FS1	温度ヒューズ (98°C, 10A) 40~56形
LED3	発光ダイオード (室内外通信)			FS2	温度ヒューズ (110°C, 10A) 68~112形
X1	リレー (ドレンアップメカ)			H1	温度ヒューズ (110°C, 15A) 140, 160形
SW1	スイッチ (機種設定 (表1参照))	別売部品	別売部品	88H	リレー (補助ヒータ)
SW2	スイッチ (能力設定 (表2参照))	DP	別売ドレンアップメカ		
ペアNo	ジャンパー線 (ワイヤレスペアNo/一設)	CNP	コネクタ (ドレンアップメカ)		
SWE	コネクタ (応急運転)	CN31	コネクタ (ドレンセンサー)		
X4	リレー (送風機用電動機)	DS	ドレンセンサー		

- 【注意】
- ①は端子盤、□□はコネクタを示します。
 - 内外接続線は極性がありますので番号 (S1, S2, S3) に従い配線してください。
 - 室外ユニットのサービスの際は、室外ユニットの電気配線図を参照してください。
 - 本図は、内外接続線 (AC200V仕様) が電源と信号の重畳方式の配線図を示します。
- ※1: 内外別受電方式の工事をした場合は、図1になります。
 ※2: 本機の電源方式については、本配線図近傍の注意ラベルを参照してください。

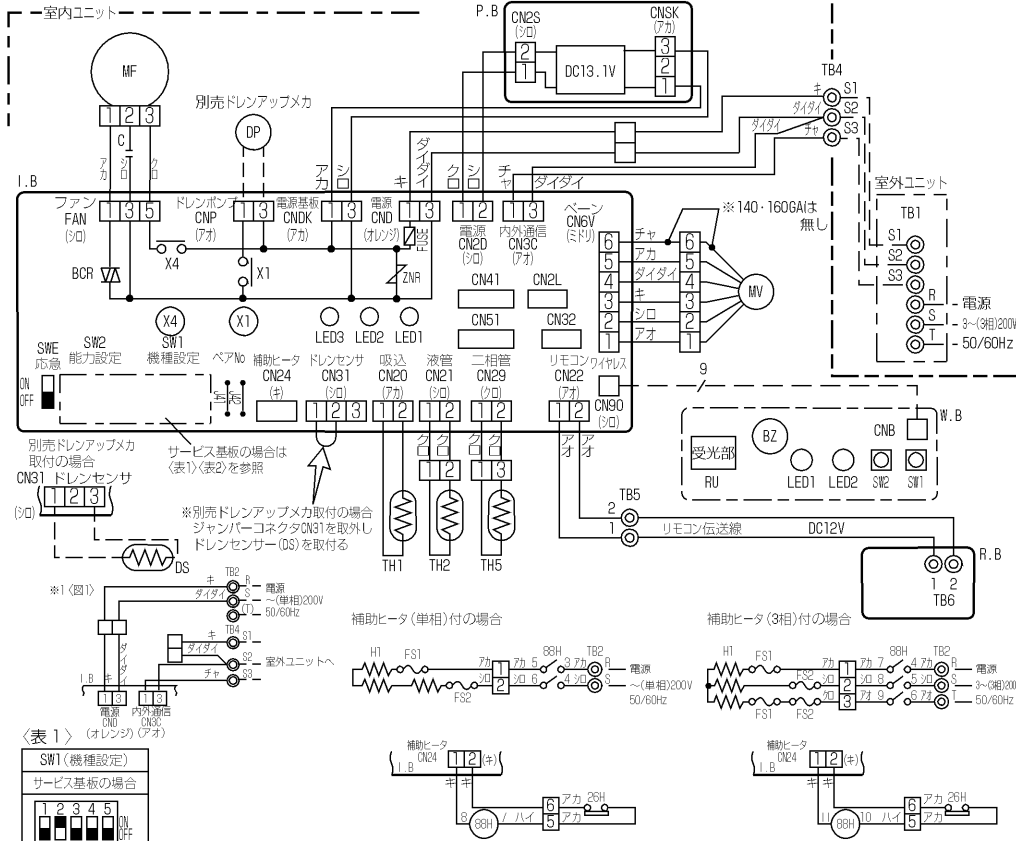


表1: SW1 (機種設定) サービス基板の場合

1	2	3	4	5
ON	OFF	ON	OFF	ON

表2: SW2 (能力設定)

形名能力	サービス基板の場合	形名能力	サービス基板の場合	形名能力	サービス基板の場合	形名能力	サービス基板の場合
40形		56形		80形		140形	
45形		63形		112形		160形	
50形		71形					

- 【自己診断】
- ワイヤードリモコンの場合、リモコンの「点検」スイッチを連続して2度押しするとユニットは自己診断モードとなり、過去に発生した点検コードを液晶表示します。点検コードと不具合内容は右表をご覧ください。
 - ワイヤレスリモコンによる自己診断方法については技術資料等を参照ください。

点検コード	不具合内容	点検コード	不具合内容
P1	吸入センサー異常	E0~E5	リモコン-室外ユニット間の通信異常
P2	配管 (液管) センサー異常	E6~EF	室内ユニット-室外ユニット間の通信異常
P4	ドレンセンサー異常	Fb	室内制御基板異常
P5	ドレンオーバーフロー保護作動	U*・F*	室外ユニットの不具合
P6	凍結/過昇保護作動	(※は英数字)	室外ユニットの電気配線図を参照してください
P8	配管温度異常	-	異常履歴なし
P9	配管 (二相管) センサー異常	F F F F	該当ユニットなし

- 【応急運転】
- ワイヤードリモコンまたは室内ユニットのマイコンが故障したとき、他に不具合箇所がなければ室内制御基板の応急切換コネクタ (SWE) をON側に設定すると、室内ユニットの応急運転となります。
 - 応急運転中の室内ユニットは以下の運転状態となります。
 - 室内ファン強風運転
 - ドレンアップメカ運転 (別売)
 - ※高、ワイヤレスリモコンの場合リモコンが使えなくなったときは、受光アダプターの応急運転スイッチ (ワイヤレス受光基板のSW1, SW2) を操作することにより応急運転が可能です。但し、室内ユニットのマイコンが故障したときにはワイヤードリモコンと同様に下記2, 3頁の内容が必要となります。
 - 冷房または暖房の応急運転を行なう場合、室内制御基板のコネクタ (SWE) 設定と室外ユニットの応急運転が必要です。
 - 室外ユニットの応急運転方法については室外ユニットの電気配線図を参照してください。
 - 応急運転を行なうときの確認項目と注意事項
 - 以下の場合、応急運転はできません。
 - 室外ユニットに異常がある場合
 - 室内送風機に異常がある場合
 - 自己診断でドレンオーバーフロー保護作動を検出した場合 (別売ドレンアップメカ)
 - 応急運転は電源発停による連続運転となります。リモコンでのON/OFFまたは温度調節等は作動しません。
 - 暖房応急運転中に室外ユニットが取組運転を開始すると冷風を吹出しますので長時間の運転はしないでください。
 - 冷房応急運転は最長10時間以内としてください。室内ユニットの熱交換器が凍結する恐れがあります。
 - 応急運転終了後はコネクタ設定を元の状態に戻してください。
 - 応急運転時は、ペーン動作しないために手動でゆっくり適切な位置に設定してください。